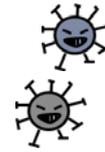
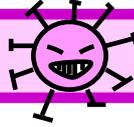


感染症に気をつけよう!

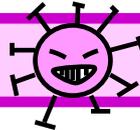
2016年【8月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号】 ← クリック
	流行状況	流行状況	
ヘルパンギーナ	警報	増加	いわゆる夏かぜの一つで、ウイルスが原因です。子供に多いですが、大人もかかります。ワクチンは、ありません。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	やや流行	横ばい	全国的にも例年よりかなり多いです。まれに重い難聴が残るケースもあります。予防にはワクチンが有効です。【16.6号】
流行性角結膜炎 (はやり目)	やや流行	横ばい	ウイルスが原因で、幅広い年代にみられます。手洗いを正しく行い、タオルなど目に触れる物は個人専用にしましょう。
腸管出血性 大腸菌感染症	やや流行	やや増加	O157 など病原性大腸菌に汚染された物を口にして、感染します。食材の加熱・洗浄、手洗いで予防しましょう。【16.7号】

今、気をつけたい感染症 ヘルパンギーナ



- 急な高熱とのどの奥の水ぶくれが特徴です。
- 通常は1週間位で治りますが、まれに髄膜炎(脳と脊髄を包む膜に炎症を起こす病気)などの重い合併症を起こすこともあります。
- 発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに受診しましょう。



- 感染経路は、体液や便による接触感染・経口感染、咳やくしゃみによる飛沫感染です。
- 予防のためには、手洗い・うがいが大切です。
- 治った後も、便には2~4週間程度と長い期間ウイルスが含まれるため、特に、おむつ交換の後は手をよく洗いましょう。



海外旅行先での感染症



- 渡航先での感染症にも気をつけましょう。
- 今年は特に、ジカウイルス感染症に注意が必要です。
- 帰国時に体調が悪ければ、すぐに受診してください。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

